



MOBILE SUIT
RX-78GP01Fb

ZEPHYRANTHES

U.N.T. SPACY PROTOTYPE
MULTI PURPOSE MOBILE SUIT



地球連邦軍 多用途 モビルスーツ
ガンダム試作1号機 フルバーニアン
RX-78 GP01 Fb
1/100SCALE マスターグレードモデル

GUNDAM GP01 Fb

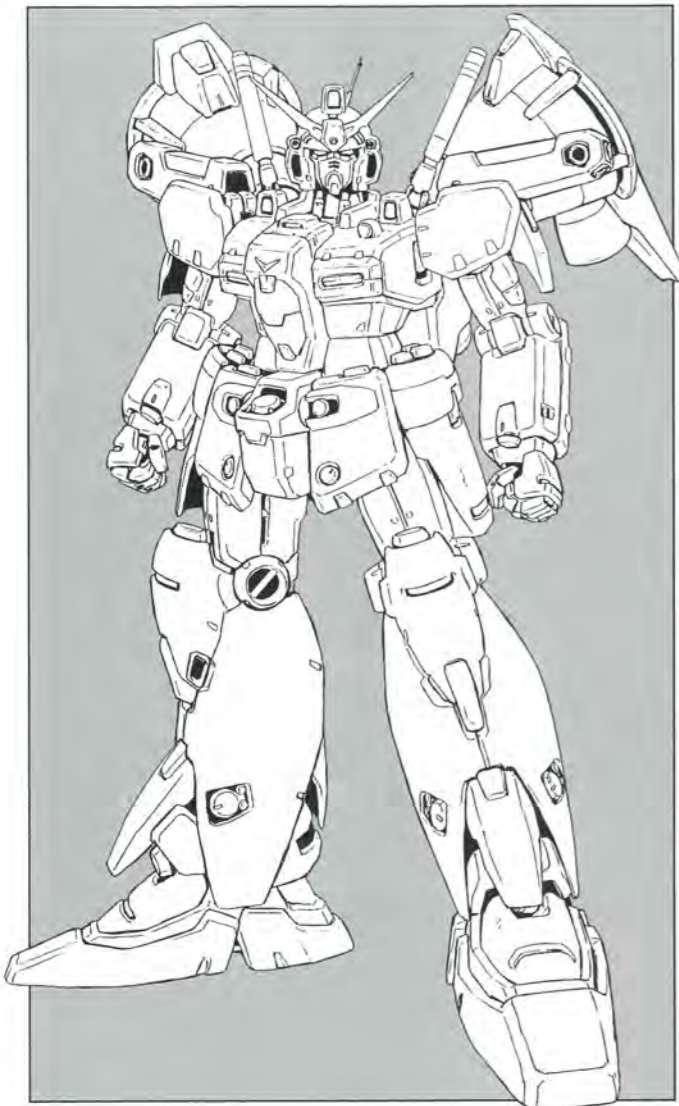
U.N.T.SPACY PROTOTYPE MULTI PURPOSE MOBILE SUIT



地球連邦軍 多用途 モビルスーツ
ガンダム試作1号機 フルバーニアン
RX-78 GP01 Fb
1/100 スケール マスターグレードモデル

BANDAI 1997 MADE IN JAPAN



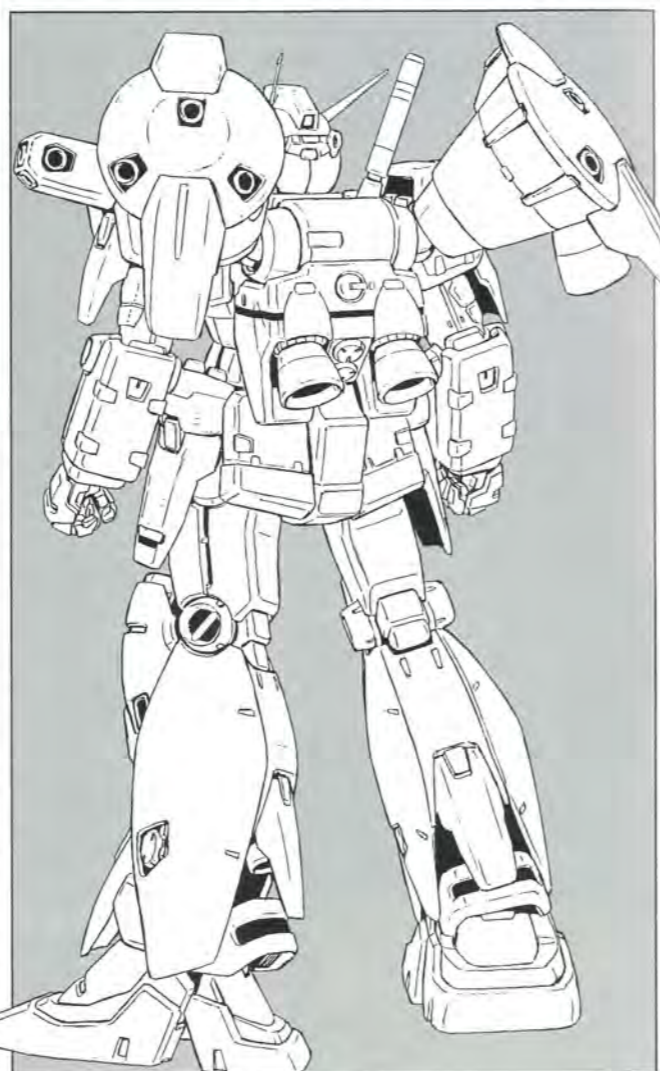


間戦闘”にも対応可能なように設計されていた。そのためのパーツは、機体とほぼ同時にロールアウトしていた。しかし、同年10月31日、デラズ・フリートとの交戦によって機体が甚大な損傷を被ったせいで、同機は機体の修復と同時にフルバーニアン（以下Fb）化という大幅な設計変更を余儀なくされた。

同年11月2日、同機は修復と改装のためA Eのフォン・ブラウン工場に搬入されたが、同月4日にはトライアルを開始している。その日程は破格に迅速なものだったが、これは、連邦軍の強い督促の他に、必要なパーツがすでに完成していたことと、開発担当者による不眠不休の尽力があって初めて可能となった奇跡だともいわれている。

この際に施された改装は、当初から予定されていたものとは大幅に異なっている。本来この機体の設計コンセプトは、いわゆる宇宙用コアファイターへの換装と、脚部のプロペラントタンクなどの追加装備によって、空間戦闘に対応するというものだった。ところが、機体が甚だしく損壊したため、逆に、地上におけるトライアルのデータのフィードバックに加え、ロールアウトからトライアル、そして損壊に至るまでの期間に提案されたアイデアなども盛り込んだのである。そして空間用MSとして特化されたGP01は、当初の設計案とはかけ離れた機体となった。（制式ではなく）機体ナンバーがGP01Fbと変更されているのもそのためなのである。

RX-78 GP01Fb ZEPHYRANTHES



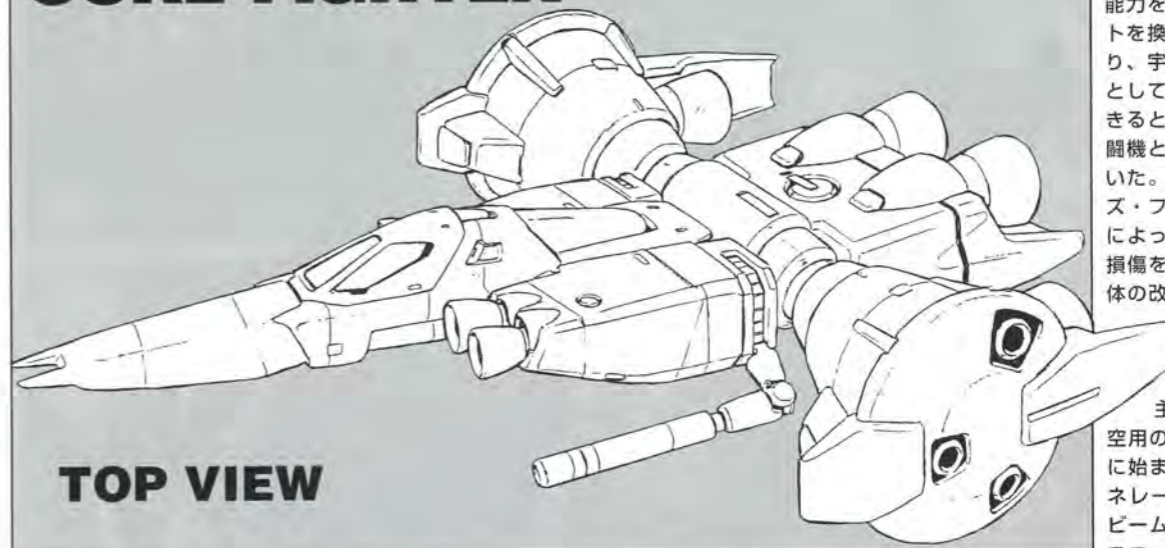
一年戦争終結後、連邦軍によるMS開発は、公国軍の技術を吸収することから始まった。連邦軍首脳部は“MS”という兵器そのものの検証を行っていたのである。そして、接收した物資や施設から得た情報から、技術格差の是正におよその目処が立った頃、MSの更なる高性能化を目指してひとつのプロジェクトが立案された。それが『ガンダム開発計画』である。

この計画は、当時推進されていた『連邦軍再建計画』の一環として認可を受け、連邦軍のジョン・コーウェン中将管理のもと、U.C.0081年10月20日にアナハイム・エレクトロニクス（以下A E）において極秘裡にスタートした。A Eは、家電製品から軍用航空艦艇まで生産する巨大企業であり、一年戦争当時、その影響力の大きさから、公国軍でさえ接收を控えた程の一大コングロマリットであった。A Eは、戦後いち早くMSの兵器としての優秀さに着目し、公国の主幹MS生産メーカーであったジオニック社などを吸収合併することで、地球圏最大のMS開発生産能力を持つ軍需産業となっていた。『ガンダム開発計画』は、連邦軍とA Eとの共同プロジェクトではあったが、基本的には、A Eが提出した数種の設計案が、ほぼそのまま認可されていたのである。

U.C.0083年9月29日、次期主力汎用型MSのテストヘッドとして開発されたRX-78GP01がロールアウトした。この機体は、汎用型ではあったが、“重力下”仕様でチューンされた、いわゆる地上用の機体であった。

この機体は、基本的には主機のコアファイターを換装するだけで“空

CORE FIGHTER



TOP VIEW

RX-78ガンダムの脱出用コアブロックとして採用されたFF-X7コアファイターは、多用途軽戦闘機としての側面も持っていた。その変形システムプランは、宇宙空間戦闘機FF-S3“セイバーフィッシュ”、高々度格闘戦闘機FF-6“TINコッド”などを開発したハービック社の提案によって決定した。このプランはSTOL方式の艦載機の離着陸のノウハウからヒントを得たもので、MSへの換装は艦内を基本として行い、空間での換装には、姿勢制御に各種スラスターを使用するというものだった。

ただし、戦闘中の空中換装はさきわめて危険度が高く、汎用性を広く求めた総合プランは多少のテイクダウンを経て進行した。また、エンジンブロックに胴体をはさみこむようなスライド式プラットフォーム方式も提案されたが、飛行中の変形による失速も問題となり、机上のプランに終わった（ちなみにハービック社は、一年戦争終結後、戦闘の主役が高々度戦闘機からMSに移行したことにより、連邦軍からの新規発注が激減したため経営難に陥り、U.C.0082年6月にA Eに吸収合併されてしまう。A Eの航空機部門の開発スタッフが、GP01のコアブロックシステムの設計にも貢献したことはいうまでもない）。GP01に採用されたFF-XIIコアファイターは、基本的に空

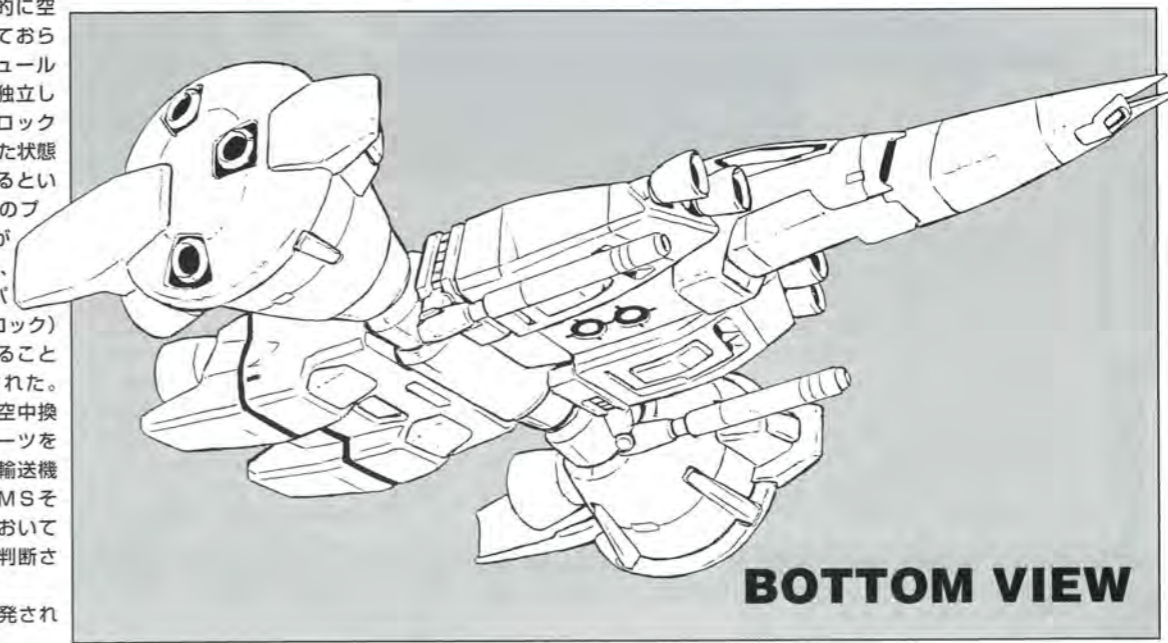
中換装を想定しておらず、ドラムモジュールとして機体から独立したコックピットブロックが90度ロールした状態ではさみこまれるという、スライド式のプラットフォームが採用された。また、換装作業中、Bパーツ（下半身ブロック）は固定されていることが運用条件とされた。重力下における空中換装は、A、Bパーツを搬送する専用の輸送機が必要であり、MSそのものの開発においては不要であると判断されたからである。

GP01用に開発され

の変更、熱核ジェット/ロケットから熱核ロケットへの換装、リバース・スラスターの追加装備など、コックピットブロック以外はほとんど新造されたといっても過言ではない。また、プロペラントタンクを兼ねたユニバーサル・ブースト・ポッドの装備がもっとも特徴的な変更点ではあるが、このポッド自体は当初からの宇宙用装備に織り込み済みのものであった。それよりもむしろ、機体前後部のジョイントが大幅な変更を受けた箇所だといえるだろう。

この部位は、本来の設計案では、MS形態時、重力下仕様と同様に固定される予定だったが、コアブロックカバーそのものが、脱出/換装時の障害となり得ることが判明したため、機体後部自体に、カバーを装着した場合と同程度の強度を確保した上で、ブロック全体がフレキシブルに可動するよう変更された。つまりエンジンブロック自体が、2個のジンバルを持つバーニアスラスターユニットとして機能するように改善されたのである。

これによって、エンジンブロックは機体とは独立して稼働することが可能となり、GP01Fbは、当初の設計案に数倍する機動性を獲得することが可能となったのである。

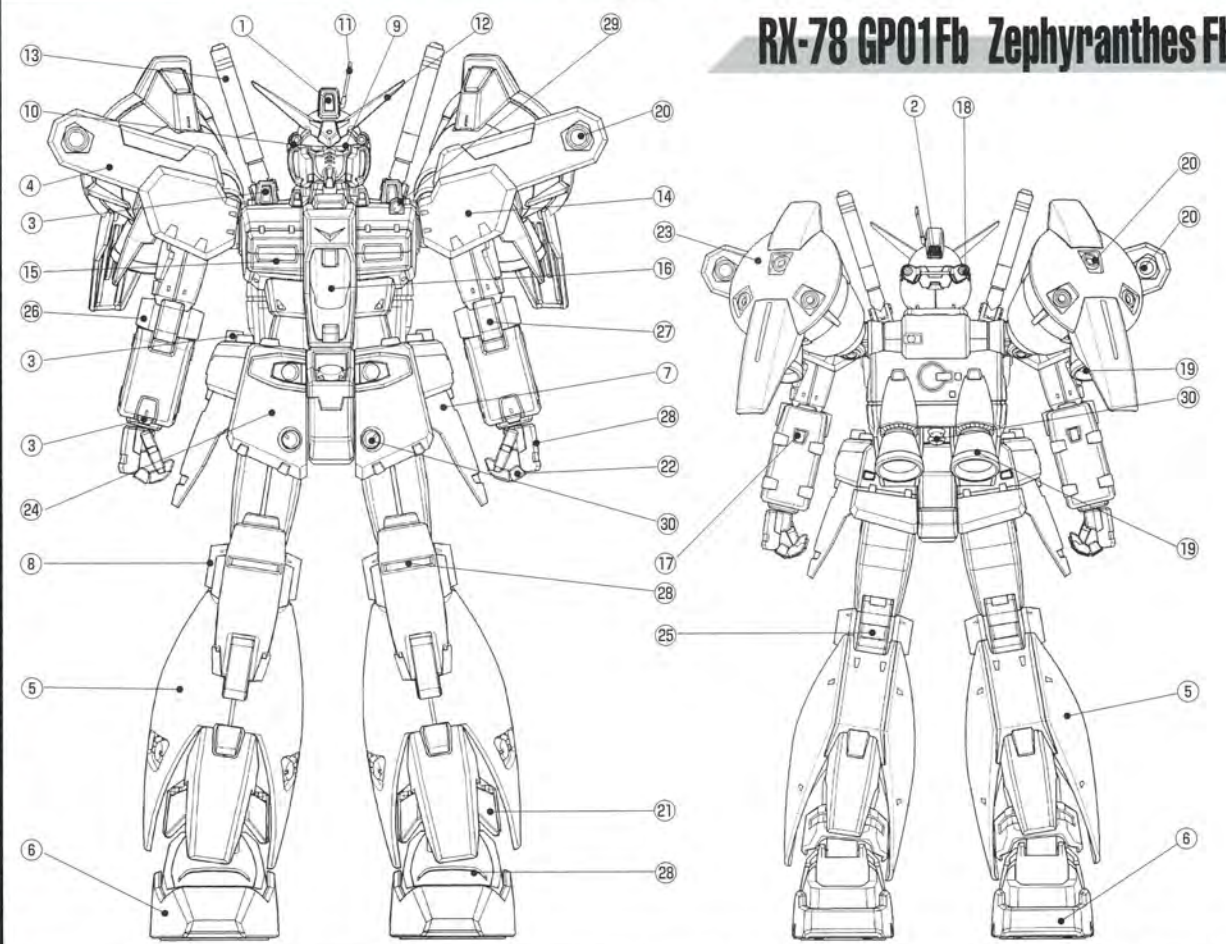


BOTTOM VIEW

たコアファイターは、脱出専用のユニットとしては破格の航空戦闘能力を持ち、主ユニットを換装することにより、宇宙空間戦闘機としても十分に運用できるという驚異的な戦闘機として開発されていた。しかし、デラズ・フリートとの交戦によって機体が甚大な損傷を被ったため、機体の改良も含め、大幅な設計変更を余儀なくされたのである。

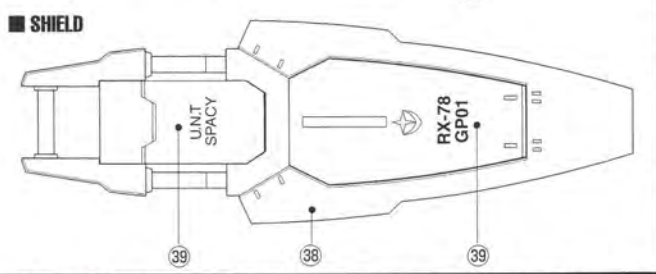
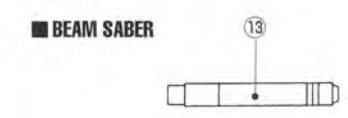
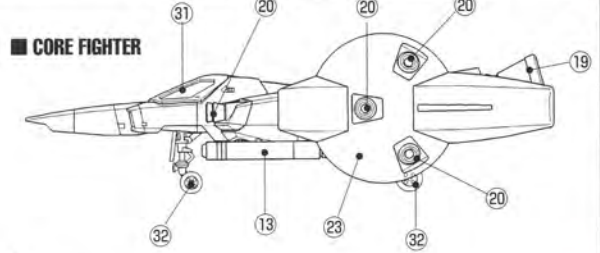
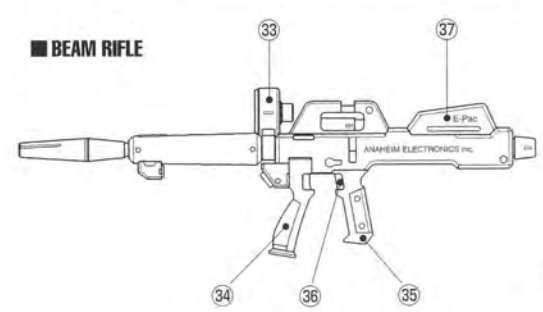
主な改造点は、航空用の空力装備の排除に始まり、メインジェネレータの高出力化、ビームガン/サーベルユニットのレイアウト

RX-78 GP01Fb Zephyranthes Fb



- | | | | | |
|----------------|------------------|----------------|-------------------|------------|
| ①メインカメラ | ⑨デュアルセンサー | ⑰マウントラッチ | ⑳ニューフレームジョイント | ㉓サイトスコープ |
| ②リアカメラ/センサー | ⑩60mmバルカン | ⑱ダクト | ㉔エルボージョイントアーマー | ㉖フォアグリッパ |
| ③サブセンサー | ⑪モニタリング用ブレードアンテナ | ⑲メインスラスタ | ㉕エルボーフレームユニット | ㉗グリッパ |
| ④ショルダーバーニアユニット | ⑫マルチブレードアンテナ | ⑳サブスラスタ | ㉖ナロウレンジセンサー | ㉘トリガ |
| ⑤プロペラントアウターシェル | ⑬ビームサーベル/ビームガン | ㉑アングルサポートユニット | ㉗サイトユニット | ㉙エネルギーバック |
| ⑥プロペラントソール | ⑭ショルダーアーマー | ㉒マニピュレーター | ㉘サブスタンスコントロールシステム | ㉚シールド |
| ⑦サイドアーマー | ⑮ノズルゲート | ㉓ユニバーサルブーストポッド | ㉙キャノピー | ㉛アンチビーム |
| ⑧ニージョイントアーマー | ⑯コクピットハッチ | ㉔フロントアーマー | ㉚ランディングギア | ㉜コーティングエリア |

注) この機体は、U.C.0083年11月に、アナハイム・エレクトロニクス社のフォン・ブラウン工場において、修理、改装が終了した後、トライアルのためリバモア実験場に搬入された状態のものです。



U.C.0079年12月31日。一年戦争終結直前、信奉するギレンがキシリアに謀殺されたことを知った公国軍のエンジニア・デラズ大佐は、麾下の艦隊を率いて戦線より離脱。アクシズとは別個に「デラズ・フリード」を結成し、暗礁宙域に繋留基地「茨の園」を設営。ジオン再興を期していた。

U.C.0081年10月20日。連邦軍は、一年戦争時において優秀な戦績を残した「ガンダム」を指標とし、更なる高性能MSの開発、試作を推進する極秘プロジェクトとして『ガンダム開発計画』を始動した。

この計画は、連邦軍のジョン・コーウェン中将管理のもと、アナハイム・エレクトロニクスの全面的な協力によって、極秘裡に推進されていた。しかし、その計画の存在を察知したデラズは、それを利用して一大反攻作戦「星の屑作戦」を立案した。

U.C.0083年10月13日。デラズ・フリードは「星の屑作戦」を決行。オーストラリアの連邦軍トリントン基地を襲撃し、強力な核弾頭を実装したばかりのガンダムGPO2Aを強奪した。連邦軍のアルビオン部隊は、GPO2A奪回のため、壮絶な追撃戦を展開する。

同年10月31日。「星の屑作戦」遂行を最後の任務とするアフリカの公国軍残党との戦いを経て、戦闘は宇宙へと至る。しかし、重力下装備のまま出撃したGPO1は撃破され、機体も重大な損傷を被ってしまった。

同年11月10日。デラズ・フリードは、4年ぶりに挙行された連邦軍の観艦式を襲撃。GPO2Aによる核攻撃によって、連邦艦隊に甚大な被害を与えることに成功した。しかし、任務を完遂し、艦隊へ帰還しようとするアナベル・ガトーの前に、宇宙用装備に換装されたGPO1Fbを駆るコウ・ウラキが立ちはだかる。

△ 注意
必ずお読みください

●この商品の対象年齢は15才以上です。〈鋭い部品がありますので、安全上15才未満には通しません。〉
●小さな部品があります。口の中には絶対に入れないでください。窒息などの危険があります。
●誤飲の危険がありますので、3才未満のお子様には絶対と与えないでください。
●ビニール袋を頭から被ったり、顔を覆ったりしないでください。窒息する恐れがあります。
●小さなお子様のいるご家庭では、お子様の手の届かないところへ保管し、お子様には絶対と与えないでください。
●接着剤は、閉め切った室内では使用しないでください。中毒になる危険があります。

〈組み立てる時の注意〉
●組み立てる前に説明書をよく読みましょう。
●部品は番号を確かめ、ニッパーなどできれいに切り取りましょう。
●部品の加工の際の刃物、工具、塗料、接着剤などのご使用にあたっては、それぞれの取扱説明書をよく読んで正しく使用してください。
●部品の中には、やむをえず、とがった所があるものもありますが、気をつけて組み立ててください。
●塗装にはより安全な「水性塗料」のご使用をおすすめします。
※ABS部分への塗装は破損する恐れがありますので、塗装はおすすめできません。

このキットには接着剤が入っておりません。ディテールアップパーツを接着する場合にはプラスチックモデル専用接着剤を別にお買い求めください。

1 Head
〈頭〉

■アンテナ
D 5 ※切り取ります。

■マスク
G 5

■頭部
■アンテナ又は C 32

■マスク P.C D

2 Shoulder
〈肩〉

■右肩
■バーニア
P 6

■左肩
■バーニア
P 6

■アポジモーター
N 10, N 11, N 12

■アポジモーター ※2組作ります。

3 Manipulator
〈手〉

■右手
A 2 と A 18

■左手
A 11

※最後にはめ込みます

パーツリスト

Aパーツ ※②③は使いません。

Bパーツ

Cパーツ ※⑩は使いません。

Dパーツ ※①⑧⑨⑩⑪は使いません。

K1パーツ **K2パーツ**

Lパーツ **PC-111**

※P.C A 6個、P.C D 1個
P.C G 1個は予備です。
P.C I は使いません。

Mパーツ **Nパーツ** **Eパーツ** ※⑬⑭⑮は使いません。

Oパーツ **Pパーツ**

Qパーツ

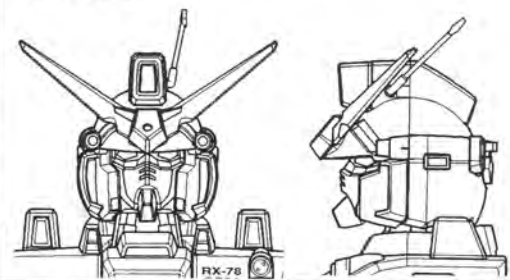
マーキングシール…1枚
ガンダムデカール…1枚
カラーシール………1枚

[使用材質] <成形品> (スチロール樹脂: PS)、(ポリエチレン: PE)、(ABS樹脂: ABS)、<ポリキャップ> (ポリエチレン: PE)

HEAD PARTS

HU-0078GP01Fb Serial 008329

GP01Fbに搭載されるデュアルカメラは、RX-78のものをさらにブラッシュアップした光学端末で、視差による計測が可能なモードも持っている。さらに、バルカンの射程や精度も格段に向上している。



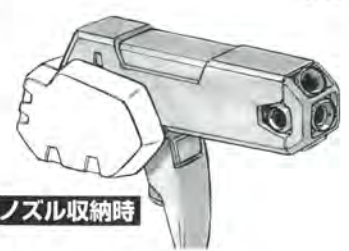
RX-78GP01Fbの頭部は、ほとんど設計変更を受けていない部位であり、予備の部品によってほぼそのまま復元されている。GP01と同様、頭頂部のメインカメラ部と一対のデュアルカメラ、2門の60mmバルカンなどが内装され、モニタリング用の装備を多数装備する。

GP01Fbのメインコンピュータも、基本的にはコアファイターに搭載されているが、頭部ユニットを副的なコ・プロセッサフレームとするシステムも継承されている。ただしこれはコアファイターに搭載されるコンピュータの負担やコストを減らすことを可能とする一方で、機体各所に分散配置された各種センサーを統合制御する機能を機体自体に盛り込むことで、MSのさらなる“擬人化”を達成するというコンセプトのためであるらしい。

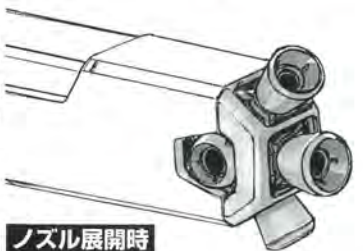


EXTRA VERNIER

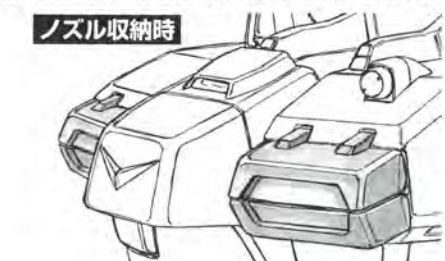
GP01Fbのショルダーバーニアホッドは、設計当初から存在していた“宇宙用装備”のひとつである。これによって、無重量空間における機体の機動性を飛躍的に向上させることが可能となる。ただし、ショルダージョイントとの中間に増設されている可動アーマーは、耐弾性向上のため改装時に追加装備されたものである。



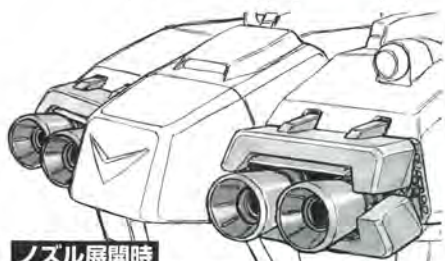
ノズル収納時



ノズル展開時



ノズル収納時



ノズル展開時

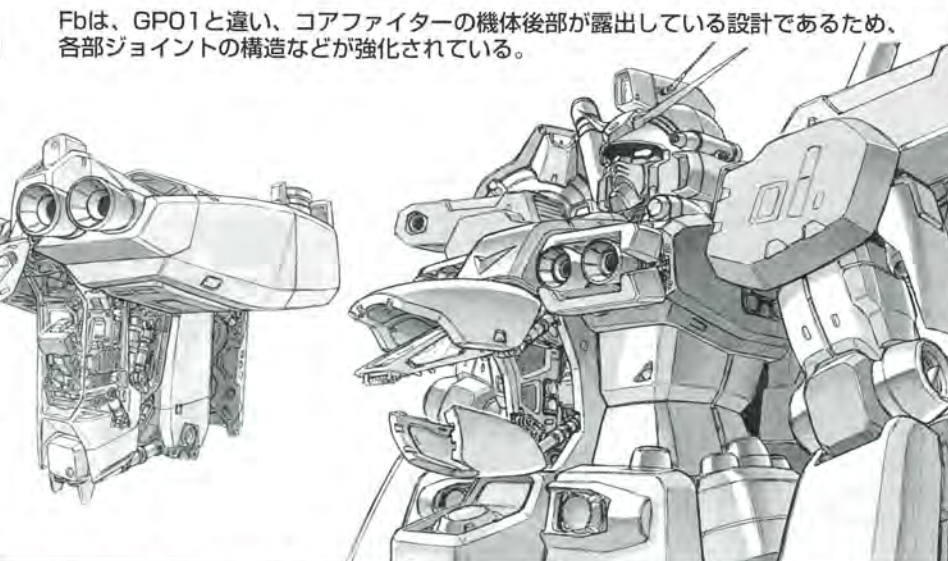
GP01がFb化される際の改装は、ほとんど“空間戦闘専用機”への特化と呼べるものだった。そのため、機体各所に姿勢制御用のバーニアが増設され、機動性の向上が計られたのである。

GP01ではコアファイターのインテークが露出していたが、Fbでは同じ部位に変更されたため、Aパーツの胸部もそれに準じて設計が変更された。使用しない場合はクローズされているが、緊急時にはカバーが展開し、バーニアが露出する。無論、姿勢制御などにも援用されるため、FbはGP01に比較して180度姿勢変換に要する時間が0.1sec改善されている。

COCKPIT

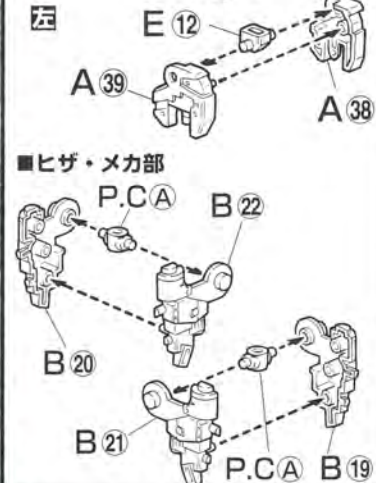
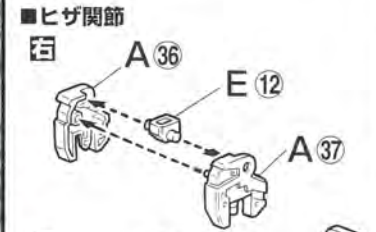
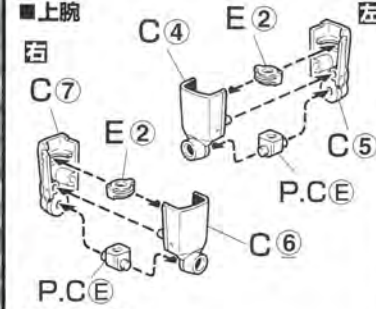
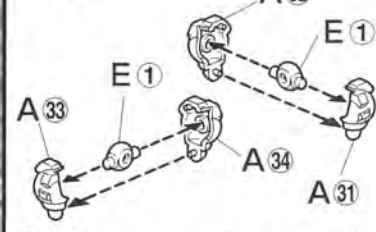
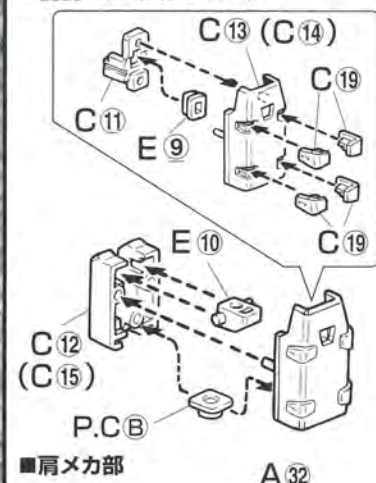
GP01は、MSとしての機能向上とともに、コアブロックシステムの有効性を再検証するという目的も持っていた。

キャノピーやハッチの構造、A、Bパーツとの接合面の変更などにより、コクピット周りの耐弾性や整備性などは、RX-78と比較して大幅に向上している。そしてそれらは稼働データからも実証されたため、Fb化に際しても、コクピットまわりの設計は（塗装以外に）ほとんど変更されていない。

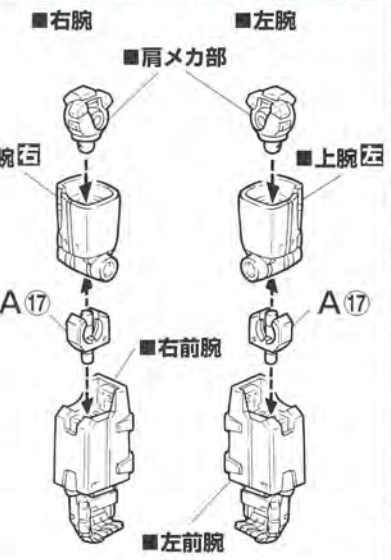
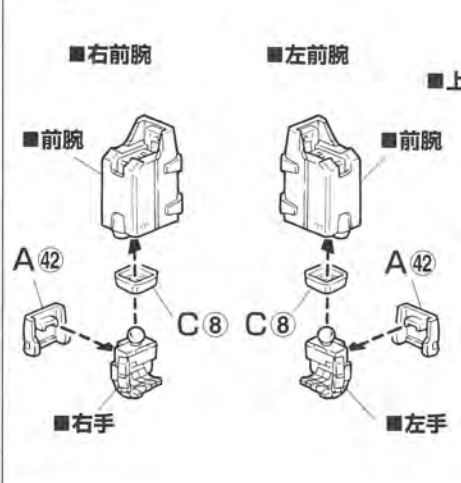


Fbは、GP01と違い、コアファイターの機体後部が露出している設計であるため、各部ジョイントの構造などが強化されている。

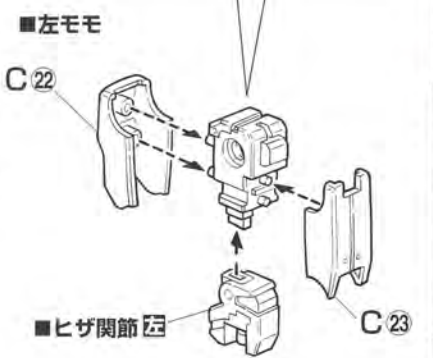
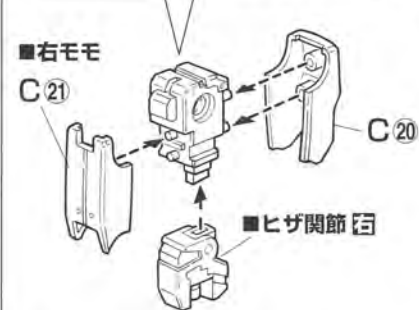
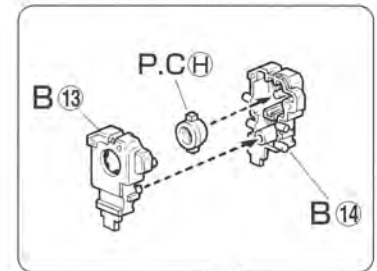
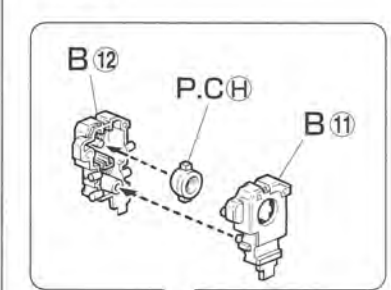
■前腕 ※2組作ります。



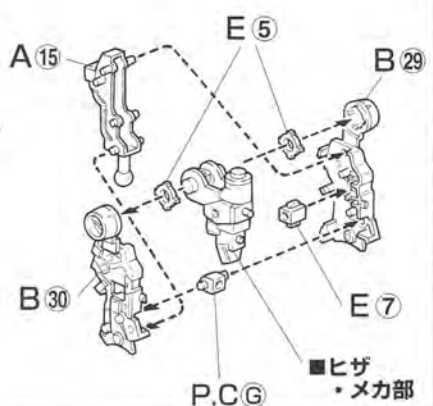
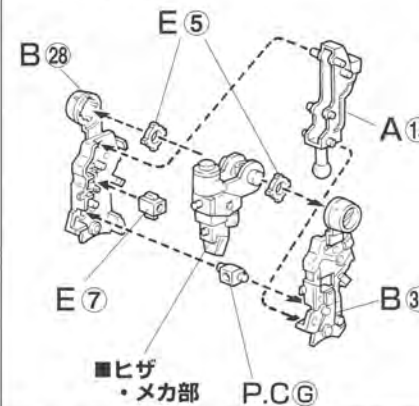
4 Arm <腕>



5 Leg-1 <スネ>



■スネ・メカ部



ZEPHYRANTHES Fb

1年戦争に勝利した連邦軍は「連邦軍再建計画」の一環としてRX-78を上回る高性能機開発プロジェクトをA.E.(アイルム・ルカに次)社においてスタートさせた。試作1号機と称された機体は様々な環境下での運用を前提に極限まで機体能力を発揮させるべく重力下、宇宙空間というそれぞれの環境で機体の部分的な換装とセッティングの変更により対応するという設計思想の元に実験機としてロールアウトした。同一機とは思えぬ程の外観の変化は量産化という現実的な視点からは課題を残すものであったが、高性能な野心作であった事は確かである。

DUELIST

旧ソロモン宙域に於いて挙行された連邦軍の観艦式は1発の核弾頭の光により大損害を被った。そしてその核を放ったMSこそ約1か月前に公国軍残党により奪取されたガンダム試作2号機であり、そのコックピットに座乗するパイロットは「ソロモンの悪夢」アナベル・ガトーであった。2号機奪回のために宇宙に上がったウラキ少尉は重力下装備での出撃による機体損傷の修復を終え、宇宙空間装備に換装された試作1号機でガトーを追う。様々な思惑を孕み「ソロモンの悪夢」がかつて勇者を馳せた同じ宙域で単機同士の戦いが始まる。



CORE FIGHTER

緊急脱出用のユニットとして位置付けられていたコアファイターは、試作1号機ではMSの主動力部を構成するユニットとして再構成された。RX-78のコアファイターがGパーツ、コアプスターといったサポートを介して初めて実質的な航空戦力足り得たのに対し、GP01及びFbのそれは単独による実戦運用が十分可能であった。特に宇宙空間装備でのコアファイターは従来の航空機の概念に捕らわれる事なく機能本位で構成された機体であり、4基のメインスラスタと11基のサブスラスタは推力の確保だけでなく、微妙な姿勢制御をも可能とした。翼を持たぬその異様はGP01Fbの機体特長である宇宙空間での機動性をまさに体言するものと言える。

CORE FIGHTER




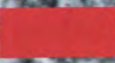




GP01Fbのコアファイターは、ノーマルのGP01のものとは異なり、宇宙用として大きなプスターボッドが、装備されている。

DETAIL UP

1/100ガンダムGP01Fbをさらにリアルに仕上げたい方は、20ページを参考にしてディテールアップパーツを接着してください。
ディテールアップ用のパーツを接着する場合には、接着剤の付けすぎに注意してください。

PAINTING

※よりリアルに仕上げたいかたは、下の基本色をご覧ください。
※塗装には、より安全な「水性塗料」のご使用をおすすめします。

-  本体胸部部分などの塗装色。
コバルトブルー(60%)+インディブルー(40%)
-  本体胴部分などの塗装色。
モンザレッド
-  本体インテークや腰部分などの塗装色。
黄橙色(80%) + 白(20%)
-  関節部分やビームライフルなどの塗装色。
フィールドグレー(1)(50%) + 軍艦色(2)(50%)
-  腕内部のメカニック部分などの塗装色。
黒鉄色
-  腕部分や脚などの塗装色。
ホワイト

FRONT VIEW



REAR VIEW



◀ 脚部カバー等の大きな可動とバーニアノズル等を再現。
▶ 胸部や肩部にあるノズルは、宇宙空間での姿勢制御や推力の確保を可能にした。

◀ コア・ファイターのドッキングアクションを再現。コックピットの廻りの構造等も再考され、耐弾性も向上している。

MARKING

機体各部をリアルに再現するマーキングシールをセット。塗装する方には、形式番号等のマーキングを要望の高いガンダムデカールで再現しました。



LEG FRAME

GP01は本来、汎用多用途MSとして設計されたため、空間戦闘用仕様の装備も同時に開発されていた。これらの装備は、ほぼ完全に互換性が確保されていたが、実際に装備された時点で、機体の損傷が甚大だったため、Fb化に際しては、多少の設計変更を伴って実装された。

GP01は、あくまでも稼働領域に対応した高性能化を目指しており、いわゆる“汎用人型兵器”としての機能の追及を主な目的としていた。MSが稼働する領域は、基本的には地上から宇宙空間のどちらかである。そして、それぞれの領域で最高の性能を発揮できるように調整されたのがGP01であり、Fb化は、当初から予定されていた改装だったといえる。

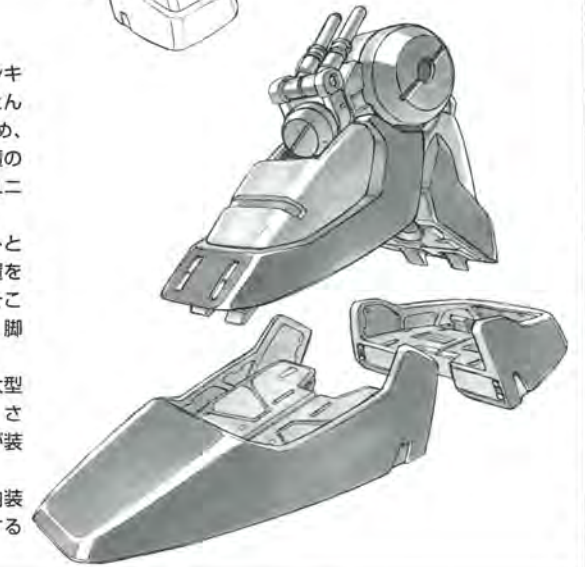


Fb化に際してGP01が受けた改修点は、ショルダーパーニアボッド及びフレキシブルパーニアボッドの増設と、脚部の構造変更である。特に脚部は、ほとんど当初の改装案に準じた改造が行われているのだが、形状が極端に異なるため、機体の印象を大幅に変えてしまっている。MSの構造の内、脚部は機体容積の過半数を占めており、MS-06RやMS-14などのように、巨大なパーニアユニットとして機能していた例は多く、脚部は大容量の燃料タンクでもあった。

実際、GP01にしても、陸戦用であれば過剰な燃料積載はデッドウェイトとなるが、空間戦闘用MSであれば、脚部パーニアは機動において重要な位置を占める。プロペラントは可能な限り多く積載できるに越したことはない。そこで、機体稼働に支障が生じない範囲で、最大限のペイロードを確保すべく、脚部の構造が極端に変更されているのである。

基本フレームは、予備のものが、ほぼそのまま使用されている。そこに大型のプロペラントタンクが装備され、それに準じた脚部カバーが覆っている。さらに当時の標準的な艦艇の規格範囲内ギリギリで、足部ソールにまで増槽が装備されているのである。

これらの構造は、“脚”や“腕”としての機能に支障がなければ、何を内装しても構わないはずだという発想を生み、後にジェネレータを脚部に装備するZガンダムなどの機体の誕生へと結びつくのである。



WEAPONS

A.E.Blash・XB-G-07/Du.05
RX-V-Sh-023F/S-04718
XBR-BOWA M-82-06A

GP01Fbの持つビームライフルは、一年戦争時からビーム兵器の開発に携わっていたポウワ社製のもので、その威力と精度には定評がある。また、この時点では共通の規格品とはなっていないが、エネルギーバック方式を採用したものであり、出力は1.5MWである。最大の特徴は、「ジュッテ」と呼ばれる小型のビームサーベルを装備したことにより、ライフルを装備した状態のままで、敵の近接兵器を回避、防御することが可能となったことである。

BEAM RIFLE



BEAM SABER/ BEAM GUN

GP01Fbに装備されるビームサーベルは、主機のジェネレータ出力の向上に伴って開発された改良型で、MS形態時でもビームガンとして使用できるようになった。前のモデルが「実戦においてはほとんど使い物にならない」と言われていたことを考えれば、長足の進歩である。



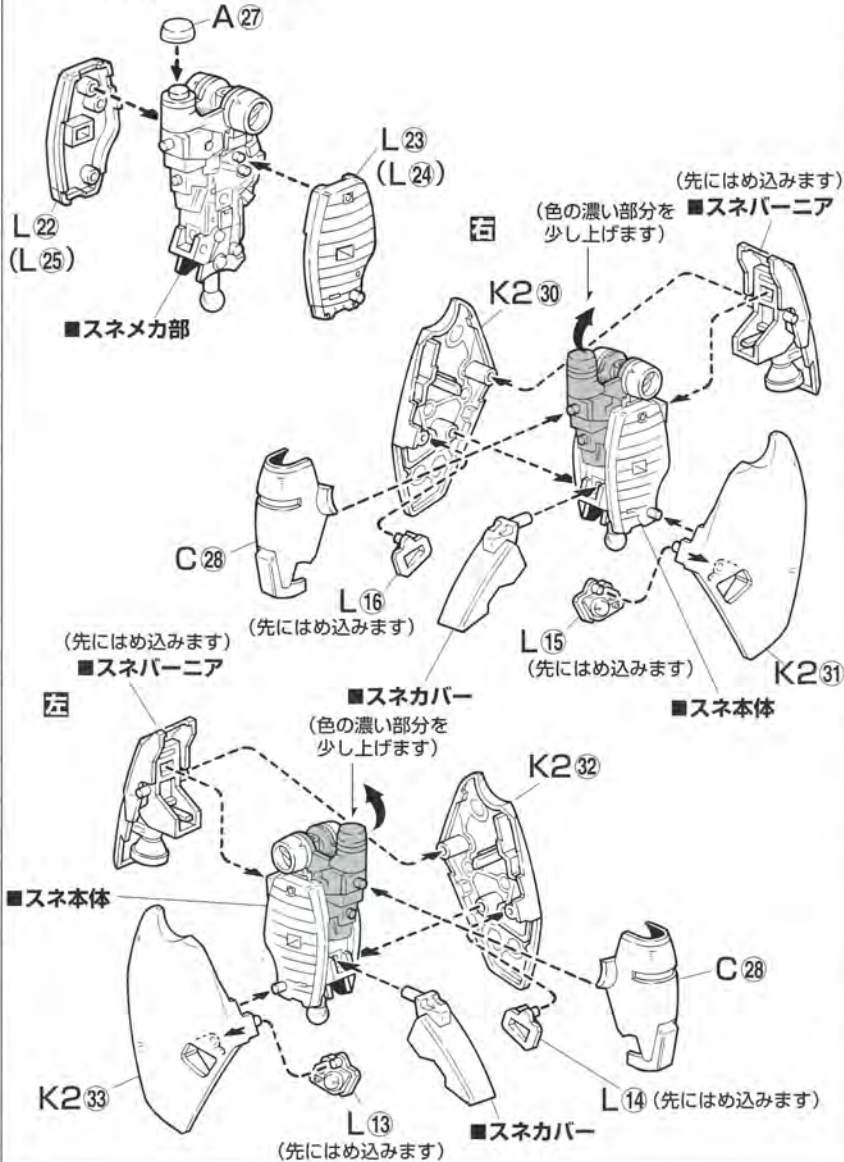
SHIELD



GP01Fbのシールドは、内側の塗装面にアンチビームコーティングが施されており、2~3度ならビーム砲の直撃も防御することができるという。また、携行や移送などの場合の配慮として、全長を短縮できるよう設計されており、未使用時の慣性モーメントを軽減できるらしい。

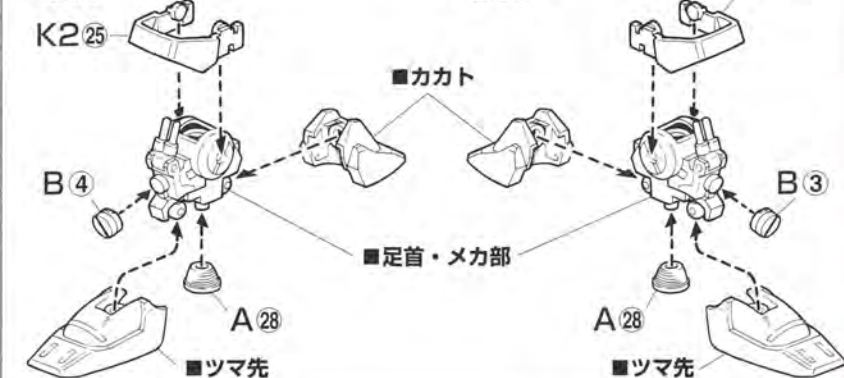
Leg-2 <スネ>

■スネ本体 ※2組作ります。



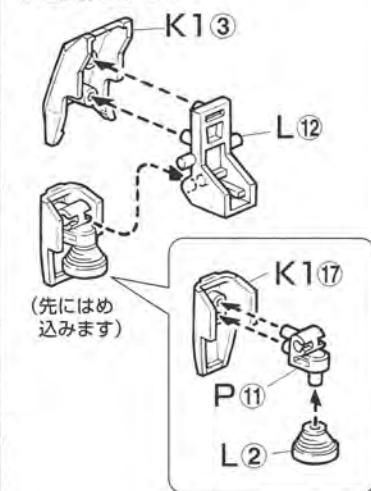
Ankle <足首>

■右足首



スネパーニア

※2組作ります。

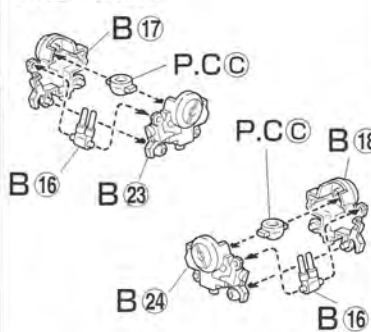


スネカバー

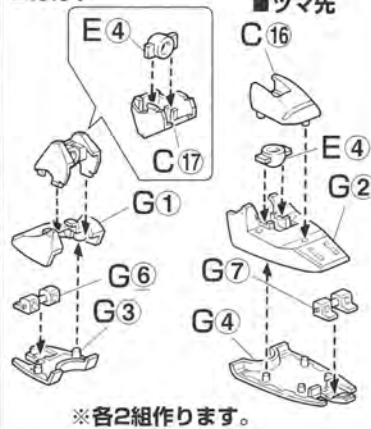
※2組作ります。

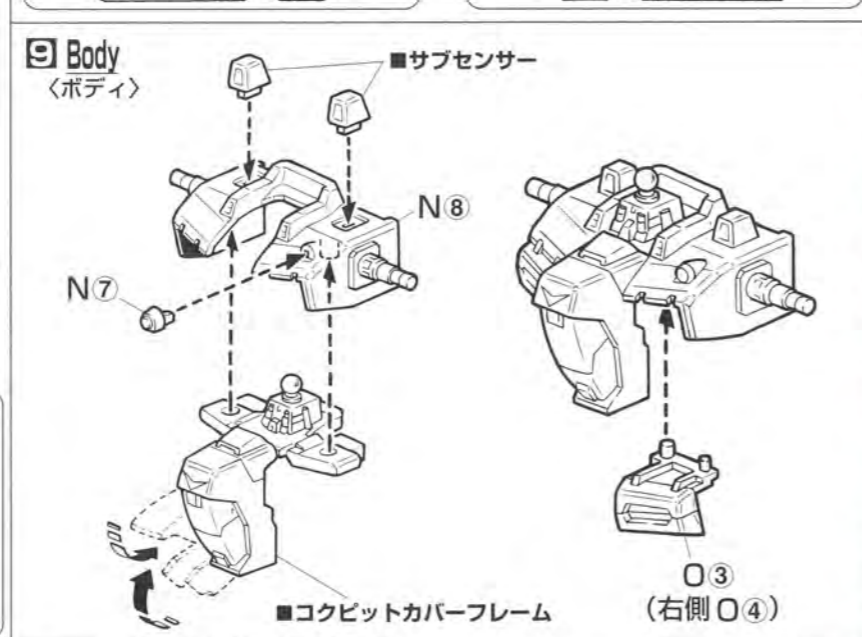
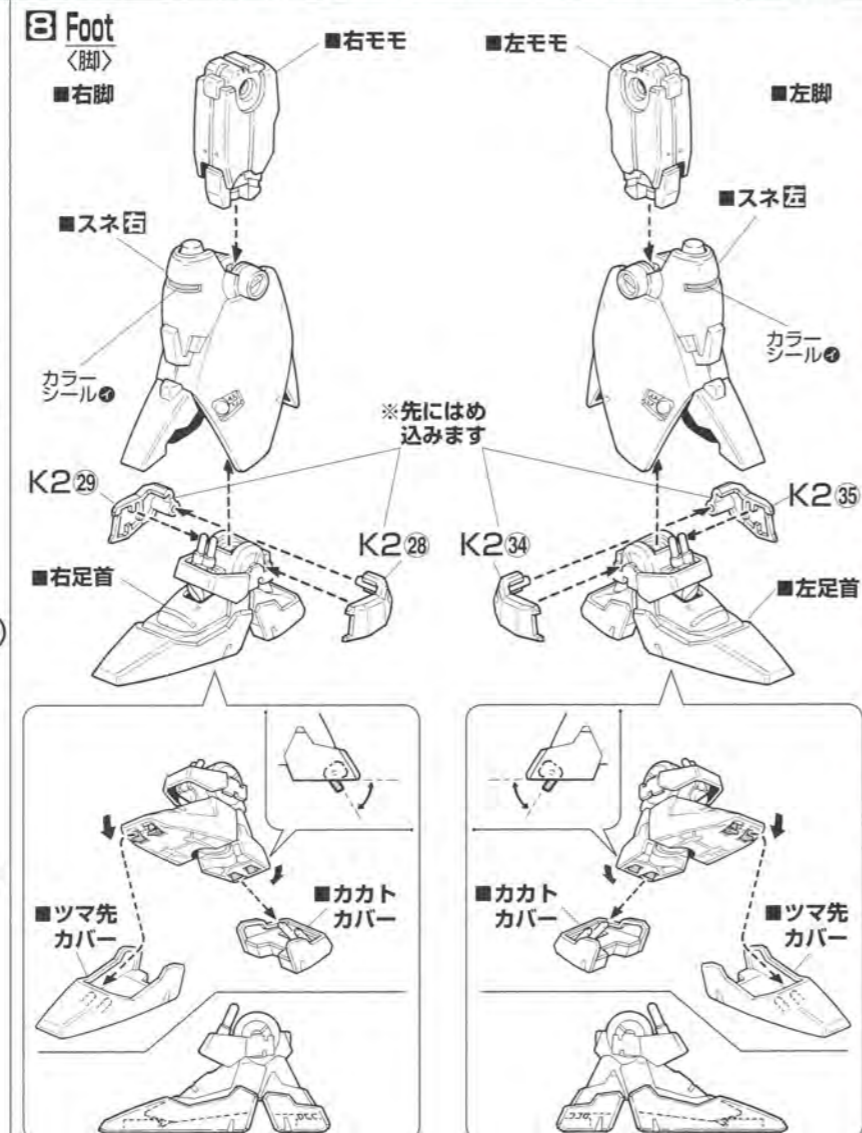
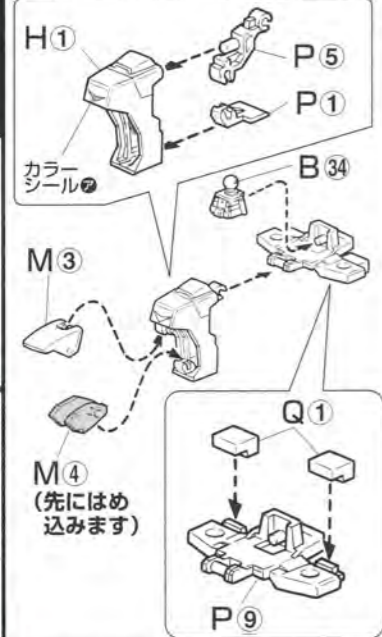
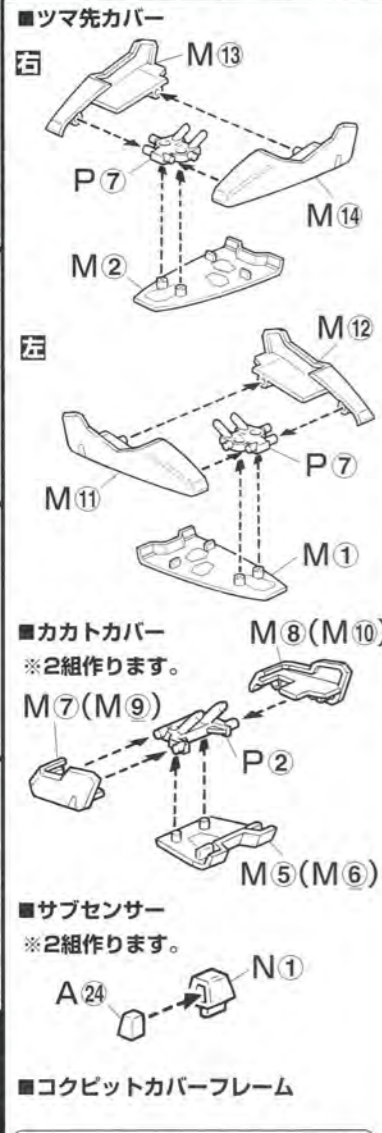


足首・メカ部



カカト



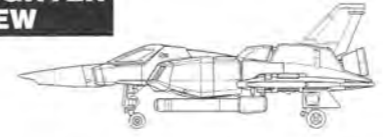


CORE FIGHTER・CORE BLOCK SYSTEM

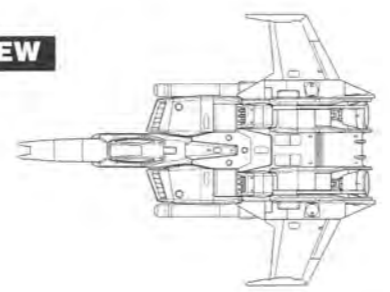
A.E./Herbic FF-X II Fb Serial008 A.E./Herbic FF-X II Serial005

GP01FbのコアファイターFF-X II Fbは、脱出コクピットであるのみならず、航宙戦闘機としても優秀な機体であると言われている。プロペラントタンクとパーニアをひとつのユニットとしたユニバーサルブーストポッド、及びメインスラスターによって、MSをも十分に機動する推進力を持っている。

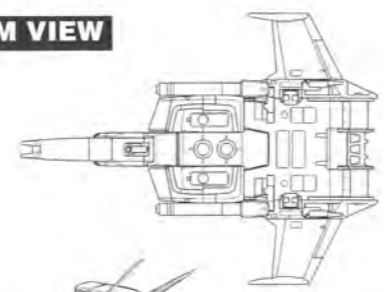
GP01
CORE FIGHTER
SIDE VIEW



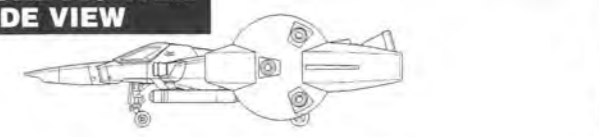
TOP VIEW



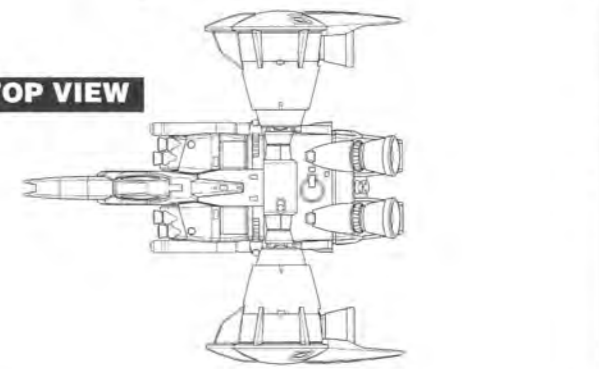
BOTTOM VIEW



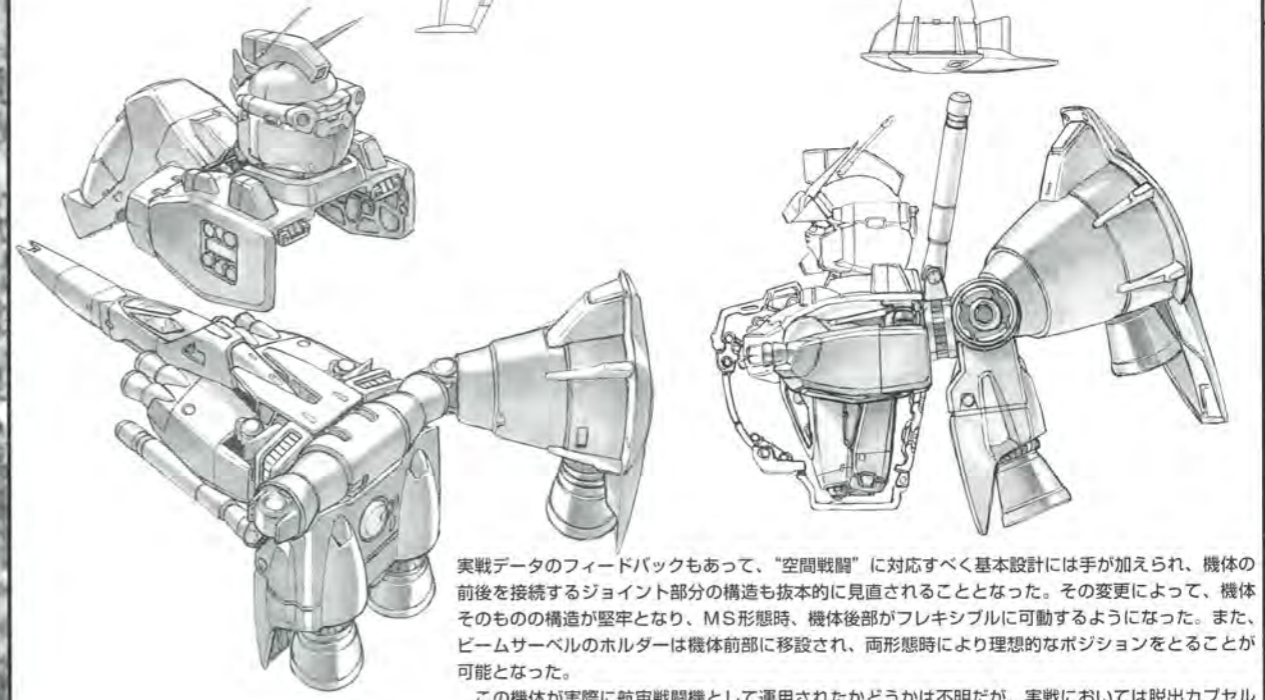
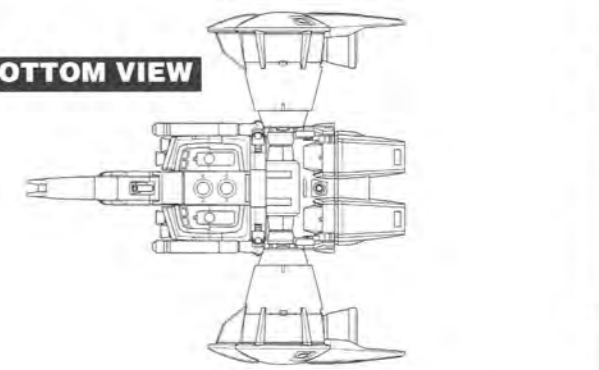
GP01Fb
CORE FIGHTER
SIDE VIEW



TOP VIEW



BOTTOM VIEW



実戦データのフィードバックもあって、「空間戦闘」に対応すべく基本設計には手が増えられ、機体の前後を接続するジョイント部分の構造も抜本的に見直されることとなった。その変更によって、機体そのものの構造が堅牢となり、MS形態時、機体後部がフレキシブルに可動するようになった。また、ビームサーベルホルダーは機体前部に移設され、両形態により理想的なポジションをとることが可能となった。

この機体が実際に航宙戦闘機として運用されたかどうかは不明だが、実戦においては脱出カプセルとして機能しなかった局面もあつたらしく、その後、同型機の採用は見送られている。

ただし、「ガンダム開発計画」そのものが連邦軍の公式記録からは抹消されているため、採用の見送りはそのせいであつたとするのがもっとも有力な見解であるとされている。

■ビームサーベル・基部
 ※2組作ります。

■胸・上部

■ノズル・A

■ノズル・B

■ビームサーベル
 ※2組作ります。

■コクピット

■バーニア
 ※4組作ります。

10 Core Fighter
 <コアファイター>

■本体・前

■本体・後

■ジョイント用ハッチ
 ■ビームサーベル
 ※ハッチを閉じます

■ノズル・A

■コクピット

■本体・前

■本体・後

■バーニア

■ブーストボッドジョイント
 ※2組作ります。

■ブーストボッド・基部

■腰・基部

■フロントアーマー

■センターアーマー

先にはめ込みます

11 Core Fighter-2
 <コアファイター>

■ユニバーサル・ブーストボッド
 ※2組作ります。

■ブーストボッド・基部

■バーニア

K16 向きに注意

※先にはめ込みます

切り取る

12 Waist
 <腰>

■腰・基部

■フロントアーマー

■センターアーマー

■腰部

■サイドアーマー
※2組作ります。
先にはめ込みます
L35
K15
L17

■ジョイント
※2組作ります。
A40
A41
A16

■腹部
K11(後)
■ジョイント
■サイドアーマー
■ジョイント
K12(前)

■シールドフレーム
C3
B15
P.C.G

■エネルギーバック
B7とB8
※3個作ります。

■ライフル本体
B2
B25
B1

13 A parts
〈Aパーツ〉

■頭部
■右肩
■右腕
■ボディ
■左腕

14 B parts
〈Bパーツ〉

■腹部
■ジョイント
■サイドアーマー
■腰部
■サイドアーマー
■シールドフレーム
■右脚
■左脚
C1
C2
A10
P12
C9

15 Weapons
〈武器〉

■ビームライフル
■エネルギーバック
A21
B26
■ライフル本体
B9
B27
B10

■シールド
H2
H3

16 Core Fighter Transformation
〈コアファイターの変形〉

1
※左右のパーツを付け替えます。
L11 (右側L10)
L31 (右側L32)
L1 ←ランディングギアを取り外します。

2
1 本体後部を上方に引き上げます。
2 カバーを下側に開きます。
3 機首をたたみます。

3
4 ユニバーサルブレストホッドを90度下に向け、本体後部を図のようにたたみます。

4
5
6
7
8
5 ユニバーサルブレストホッドを外側に伸ばします。
6 ユニバーサルブレストホッドをジョイントを回転させながら図の位置にします。
7 ビーム砲を外側に開きます。
8 ビーム砲を図の位置まで上げます。

17 Combine-1
〈合体〉

※ジョイント用ハッチの奥側を押し込みます。
※ジョイント用ハッチを開きます。

5 〈変形完了〉
コア・ブロック

胸部ノズル展開時

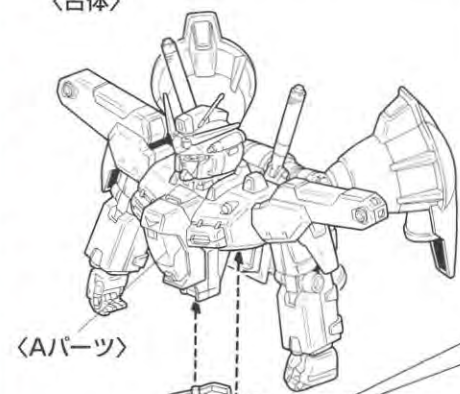
※左右のパーツを付け替えます。
〈ノズル・B〉
〈ノズル・A〉

※左右のパーツを付け替えます。

02 (右側 01)
03 (右側 04)

18 Combine-2

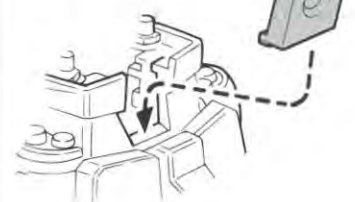
〈合体〉



〈Aパーツ〉

〈Bパーツ〉

※Bパーツの後側にカバーを差し込みます。



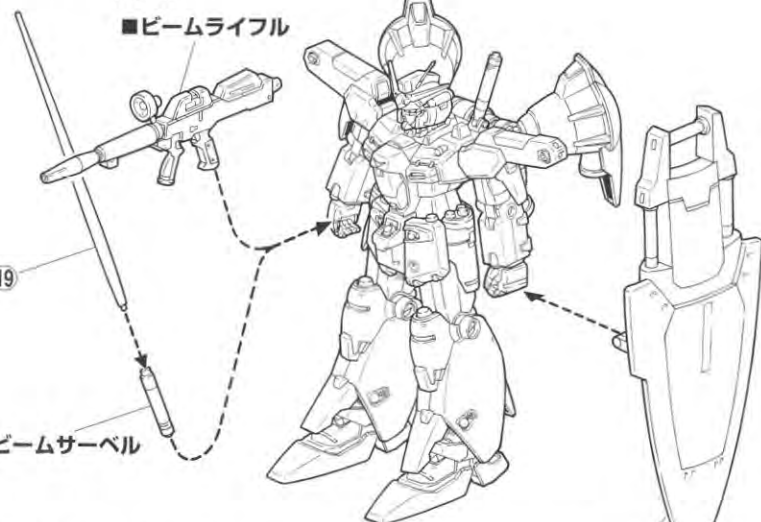
〈カバー〉



〈コアブロック〉

19 Final Construction

〈完成〉



■ビームライフル

A19

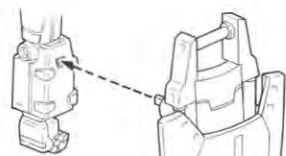
■ビームサーベル

■シールド

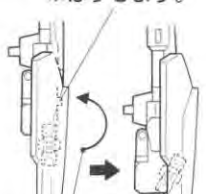
※シールドを手に持たせませす。

※各武器を手に持たせる時は指が可動する手首に替えてください。

※シールドは伸縮し、前腕に取り付けることができます。

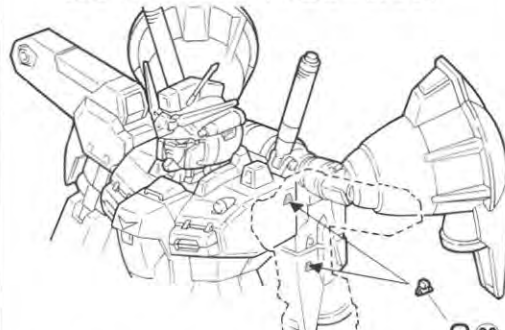


※はずします。



※上にスライドさせます。

・完成品をよりリアルに仕上げたい方は、ディテールアップパーツC35、C36を接着してください。(下の図は一例です)



C36

・C35・C36は好みの場所に接着してください。
・B32は好みの場所に飾ってください。

RX-78 GP01Fb
Snap Shot

Parts name of
RX-78 GP01Fb

Parts List

Head &
Arm Unit

Leg &
Body

Core Fighter

Final Assemble
& Weapons

RX-78 GP01Fb
Snap Shot

Parts name of
RX-78 GP01Fb

Parts List

Head &
Arm Unit

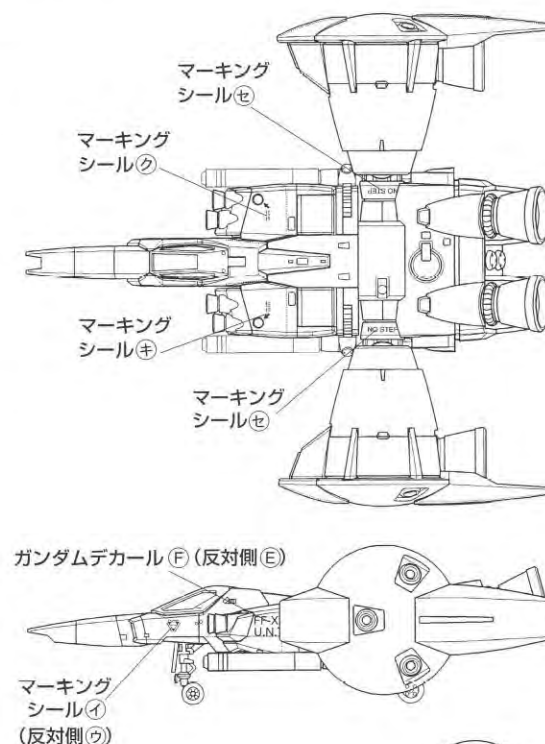
Leg &
Body

Core Fighter

Final Assemble
& Weapons

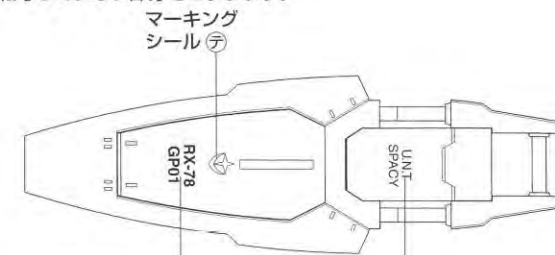
Seal
〈シール〉

下の図を見て、ガンダムデカールやシールの位置を確認してください。



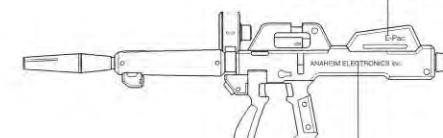
ガンダムデカールののりかた。

1. 転写するマークをだまかに切ります。
2. 転写する場所に軽く押さえ、ボールペン等の先の丸い物で上から軽くこすりつけます。
3. シート部分を静かにはがし、転写していない部分があれば、もう一度転写していない部分をこすります。

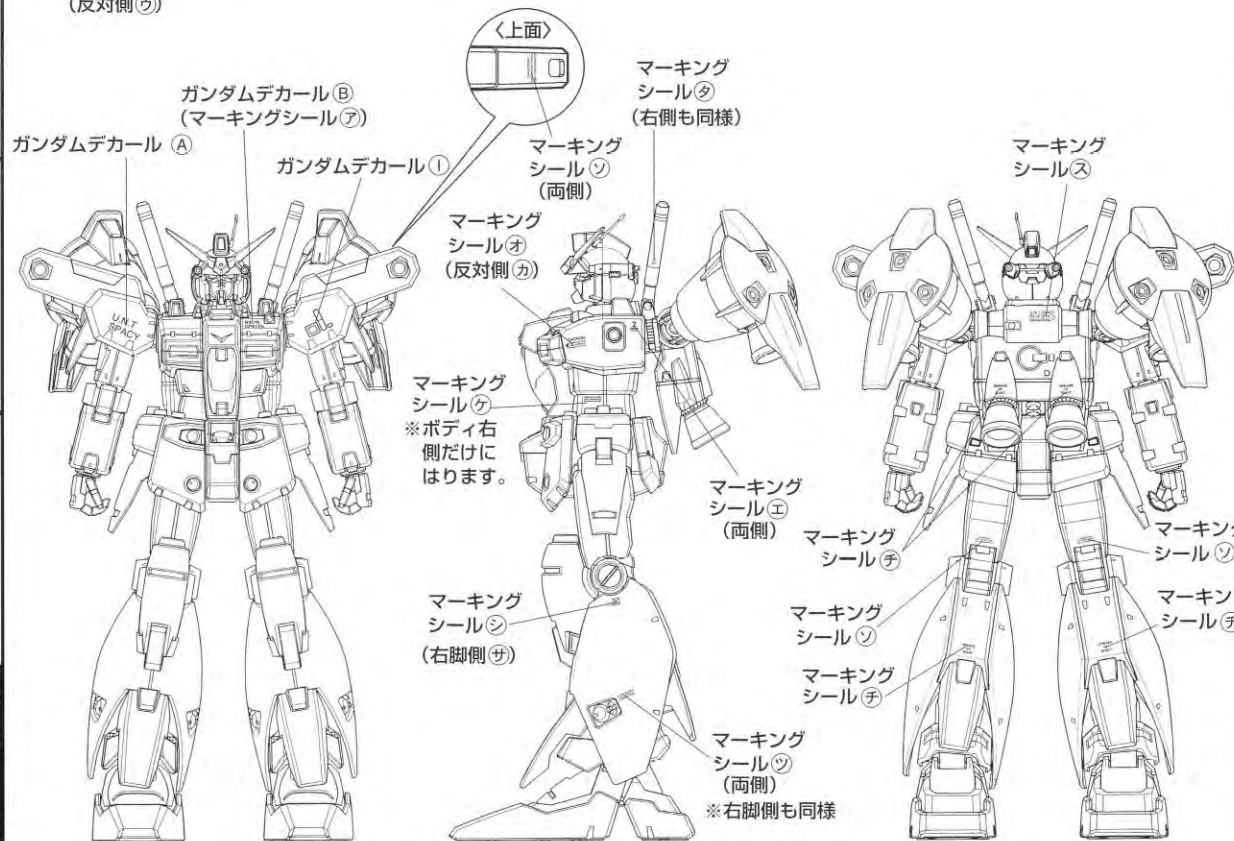


ガンダムデカール㉔ ガンダムデカール㉕

ガンダムデカール㉖



ガンダムデカール㉗



※ガンダムデカール㉔は好きな所にはってください。 ※余ったマーキングシールやガンダムデカールは好きな所にはってください。